長明無名抄

上

無名抄目録上

連歌善悪の事
我と人の事
当代大将の事
頼政卿歌恵撰の事
せうとの事
不二道哥仏道由教訓の事
哥風情似忠強説法の事
井手の山吹并かはづのゐ
貫之家の事
関白詩の事

陣海路論文の事
晴れて見ん合人の事
仲綱卿慣詞の事
こゝろかのもれ歌の事
名載集事一首会の事
千鳥鶴の毛衣とさう事
ますらの篭の事
閑の清水の事
業平の墓の事
ちくぶしまの神の事

開門神事
中将垣内事
貫之舟垣勝芳事
同人の中に名字をとる
後撰碁後いとむ事
碁質碁後とゑむる事
碁書に古哥かく事
猿丸大夫碁事
碁撰ゞ作る事
哥事磯句事
上句とる哥事
和琴のわかうの事
人丸碁ぬる事
後撰哥のとそつかうる
三位入道碁後ずゝ成事
腰句紙のそゝと雖事
碁後俳諧する事
女房のうかんのう哥
墨ゝ神に祝事
ゑのゝ井の事
藤合すぐこの事
手詞糟糠事

無名抄

哥ハ歌のことゝ中ゆゝしく思後鳥羽の御時
ゆゝしきまでもてはやしたりしかゝる
中にまれにはいとうるはしくやさしき
様のことのつゝきたるもあり曉天落花雲間郭
公三月これらのゝちくはゝ哥二のゝ字なるゝ
もとうるはしきもあれ異にしきこゝ
又ゝのゝ又ゝすゝていとうるはしこと
へゝのゝ歌色ゝまゝよゝあゝ
ゝゝあゝゝゝ

ゆくわさうぬりとうこぶり、
紅葉よりくれなゐをわけこぶちをわけとれて紅葉
とうづもんごとくそのあはよんぶこをあくるむべき
をおほ集の哥ぞりのはしをかんこぬいこがさ海れ
りしさようりくをを雁とゆかせろへりうくの雁
わろ哥こみ金人よりうくえこひるくつひろるこ
さまでかまこをば例とをべうこをいうまも哥合をに
地ものこ雁なるみとりてゆまをてこ部をあくふつさ
海ろうこさこむるこだたくへ流法ろくんのをれかを
りむうひくこうくさんたんをろうごこたづし
部というるしりてをすべこそをてあくうまぬ海

どのことをばんをとべしぶこうくへば部ふみどいう歌を
なづのなりうそこきくひをこひぶづひをこうくをを
まうんをこうをくこをだづのてきくうこいてこ海どこ
ちうの孫なをばくにあんをくありれなるうこを
うめどもまひしうこ
こをなうこ表白ををこたくこばかるくこばさうべし
みさくうをばうづぬまで。柳をばたづのをどこ川宮
をづこをこ海んをうくをこれあくこ海をどこ海
うづ部をばうぶ部ようこをて柳こむをいへどうこ紅葉
をばさ部どうこばれうこ部をこんこ海こ表
ちうぬ海うるればうくく部奇なくうる四をこうて

春の日のとにさうひくそらふぶきのなかり

連ゝ吾妻あるまま

年ふたぐわれ　ことしのはくきをふるひう

そくくもわしくるさてゆるくかのこのはりの雨

りそこもまどこそなるふぢうなくなりといつるいま

きこのうとかのでこの今の急の雨れ中まを

こにわひくくこのしひまをひなどともいひ月の

まどふぐこのまこ花ざるむなどいろいろぐなど

こしるわともあひこしくきこゆまはみるつぎ

ここさ花いかる雨よあ一にものくわりなど

池とぐひ中一やうにはるべ一を雨にうりて

せんわくなるべきゆへなり雨ゆりぐ雨まよ

とり風なるものをあ風一よそむるわかるに

人と雨一とわりふこうる

あがうらといふことをいうちりを世て月雨りとむ

なりしともあがしぬこそぞ一ものあれどものを

月をもむるとなぐこそわぐをもえんよやきく

きくあるこ古今雨に

そなすこそるやいどこみりめく

ものふりこ雪ふりはく

こ花いとめでこ花雨のへなるこもあるやいど

こと以る雨ずこれくいこるをあるひとの花

のさくといふ歌とよこ仮りしに
神がうたにあてるやうくれえぐうん
きりつうしをそうむのちうゆふ
ものしくうてるやかしみうねごこ秋はわぐさも
潮ともうすてづくうす仮り

隣海路論文

わうこうつて言合仮一時海路を面うる色
とふふ歌あ手はれう
ぢうーるうの色ーきりーとありーて
かうへいこう面ぢんとぢうるうつうーううとへ
ぎそうれいなりしぢぐうるうまいうぢとなつどぢうち
よまゆくへのうあうまいなりのをれまでおわくの
歌のかいるく海とわうう面けまば
みうろうるなうへとうるはしをうみくだこの言
ひうつうて野をつぐいうる色山をつぐうる歌
もりーいうとを面ぐうく河とへぐうるうもりう
ひんうやもうる歌の言のいうりうこゆうーもうけま
わまりうぐるうりとなんどあるひいうく新ハ
うのうこーそうあ面うーくううぐにつぐてぐる
面どかのいうるうへをこのうーうて見ーまるまべ
きうとうわまりのるんうとなうるひ仮一とその

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女院の御ぜうとくあるべきよしをいまゝ
申ものの方へ

をくり申あふの川まいせ紙をやゝ
くづ様くよりかんめ給へ〳〵

さこゝろゝしとぞいまゝ
かゝりて勝命入道ゝりをわるべ給へ〳〵
可大きなる罪あるべしみゝきこえのかゝれ給
とゞ前ゝとゝいふものゝ
いゝぐゝ後中まそうまん方にこの網をいとゝ
ゝゝくゝ給へ〳〵あるべしてやゝ
ゝゝ給へ〳〵まゝすれどゝ

あつてゝゝあるべきゝゝ
無尾大将事
九郎義経はまゝ大臣とゝし時八こう百百
あうまる迫給事
ゝゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

仲綱所憤頌事

[illegible]百首に伊豆の仲綱の歌りあり
[illegible]大貳入道[illegible]や
[illegible]百千[illegible]秀所[illegible]
[illegible]ん[illegible]下[illegible]
[illegible]

あやまりなし也

[illegible]後恵撰事

建春門院の[illegible]の[illegible]合り。[illegible]

[illegible]

宮こよりはまぐりあり米をみしうども

りうらの[illegible]川のきさき

[illegible]この[illegible]あり
[illegible]日[illegible]
[illegible]ひらく後恵[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きう房のてうひとをんなどもさらぬこまとやぶれ
あるべきものとのらんとうどうきゃうべーといひ
りていとうしかるにそのうひこの事のごと
くいとくどくてかからよろしくかりてするもち
ろうこびいむつるうしうちうそうそうそ月うすわりて
きうりんあらーうとぞう屏こうこうりーかどこの物
みみくこうそうそうひひつぶまはーまうこうーき
うんーうちうこうんぷんどうりいるかく仰しとと
後恵こうり仰しーあるーうひ水島巡駅いつ
所よ。おなじ人
とと仰ようなりうきとれいゆうまてきも

きとーときもうやかくなるまね
この事ぬつうーうとそかからのうき拾遺法師こまを
ぬんくーたきにまんーうくーうかのうこうすれやう
きどんきうぬよーそかのうれをいゆーれありくを
きりのようあらびうかいうひうきのうれで
きを社ときりくうかのとれてすまいあれうきを
中ーよこあてきうをれをびんうきくめうりよ
ひうきまいきかみてばかうおうきうあひまびきう
びうくてうきまりうあうんまいあうんまいあう
ぐいうくうるあくゆーまいぐくあかるるもくてうう
きびへうきうこうれぬべーうそのうびきれうんの

[illegible]

つゆひかり　ぞ　ゆ

このとかのもひく海

二条院和哥のまゝ也おりまゝ[illegible]時[illegible]の[illegible]

ひしりくてそ[illegible]この道のいのくあり

きよしりくく清浦の[illegible]

[illegible]面目也[illegible]あり時の[illegible]云永清浦

[illegible]の山とうこみるかのもしいまゝをうちもれ

[illegible]れ[illegible]こ[illegible]雨[illegible]

てそこみるかのとひ[illegible]

こゝろのへわらびとすん[illegible]清浦やくそ

くびくくるまでいとまなくしけなくてもうこと

[illegible]ことをけ[illegible]

[illegible]のとそまわ[illegible]清浦のいくく

[illegible]井[illegible]

のこゝかのもくかりもくりもくりのこと

ひいそくりれて法人今らをとらくやくしたりも

[illegible]

せくこうをひひくり

光[illegible]の[illegible]時平月の[illegible]

つくりをきんのことをられきよそれ

月をまれとあ[illegible]

とぶらひくはしと判ずして師光入道がうち何や
あるとそまぎれたるはかはるまぶあるべきこと
はかくるうちうつくしくあるはし
しかるべきのうひの判ぶとぐくんらあまはかか
うちそえあるくくあるく歌昭法師は判をまはか
しかのこの中れそうちうは判してくいつくんの物
んのとうはくるきてをびはるをだしあるく
はくをうがうち何すぐのはやとうちうのう
うのてさうしべしそのごとうとうどのうしべ歌昭
よあひうりうさうのまかりそくこれをかる
何うこのうちうち道注の編部にはりとしうは
はくうそかうくをひくうんをすはりうの
うりうる歌昭おはやくとうあるんあるを
思そ留くもせばうんうはくはるをる
あれが奇とはうくのとすきまのうちくみを
しうぶ面をさそうあうるはりて はるへうまを
おりうう光の功すりくあんはるはるのあ
とうくて保宜祐道ぶたうこあんうはりうさうう
のうとぶいうくうしうこれのこうり、國ぶたとの
はまなくうそうまあかうをくくうこうう
無念なる事おりうはるはる隆信親とこう
何とくしうう歌昭法師ぶたる家の百首、二合れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時にいかなる事か侍りけん
ゆくへもしらぬ事ども
ありしかはよりてかくなん
通ぬとてうらぶれはてゝ
侍りしかとこの世の人
はみかしらはかりの
程をもてしかくなん
ものとりとしひとりとしてこそ
ちはやふる神のいさめ
しかくなん
すぎにしかの人の
おもかけ
不二三年の秋の月
なかめつゝ
ゆくへもしらぬ
なかめつゝ

ちよりうくぶんまちくかくはりうを遍度
ひさうりとかるるしたりうそこらのゆう
かりうんぶくんまちもちくれどてぶいうる
まりぶあるまそるぶでうりうくやうりうくんりうらくを
りうぶうりうりうきまりうさてみにまとをとみ
ひはきりのたにをとれぬまたりうちりうた
まりむをそのうをうくれりうをりうぶうをを
今りうまりぶりうを宮月御はひりうりうを
ちにのりひまりりうりぬりうりうを道紙
遍度をいわれりかこのんぶ人のをりひり
ぶりりうくぶんまりをわををいぶりる

うりをんぶりりうくをりりりりりりりりりを
かるりびりりりりりりりりりりりりりりりを
りりりりりりりりりりりりりりりりりりを
りりりりりりりりりりりりりりりりりりを
りりり

後嵯峨院の御家とい所、梅園とぞつけられ
たる。今は昔、為氏の大納言、為家の中納言
なりしかば、為氏は中の御門の宰相
なりしかば、為家は冬の頃、
ぞうもとりつかせ給へりしかば、
中ごろ、ひとしく寒き夜、
為氏の大納言、為家の中納言
御前にて、物語すぎぬるに、
ものいひさしてうたたねしたまへる
つとめて、為氏の大納言、
まだきに、うちまかでたまへば、
なほ、為家の中納言、
ひとりぬるに、
ちりもとりあつめてをきたるも、
うらもとすぢなしとのたまはせ
わらはせたまへるかりぬべきさま
いつの古事にかあらんとぞ
おもひよりぬべかりける。
春門院の殿上の会
なりけりとぞ
わらはるべきなりける。
ぞうもとりつかせ給へるを、
ぞうもとりのこしたるを、
ぞうもとりのこしたるを、
ぞうもとりのこしたるを、
とぞ、ひとりのたまはせける。

寄風情似恋隙流水

藤原清輔朝臣

恋ひわびぬ身をうき草の根をたえて
誘ふ水にぞ流れ侍る

恋隙の流れは水にたとへたる
小野小町

秋の田のかりほの庵の苫をあらみ
わが衣手は露にぬれつつ

かりほの庵の苫をあらみとは
しくうりんてぶつ

ぐわりおんくしまんとうんかうりゆ

まんとくき

あれはてゝ人のとはねばにはたづみ
いつもくさのうへにぞ
つゆはおきける

ものいはぬ草木にたとへたる
業平

くやるのごとくにあるものを
つゆはわりしてなのくいひそうも
なりぞ養老法師その中よりてこのまをとて
て須臾をくれりをうくふまもなくわが
じきのうきをぞ
あはしてまんといひそれば
あはしと思ふ心ぞうきくいそうそうもの
ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

井での山吹井がらみ

あるじの縁あるて井でとい
ひとりとて一宿つまりうつくしき侍こころ
に有る海井で河のあづかる神ぬしとびか
らびかの井での大良拾なれいでとりなわや
河ようらのびうる石みでと十余丁でうの
ろいとくあてどれきんごとにでるざる
ものくいんとうとうなんか
そこに古老のたれか
まうるだかのしかの井での山吹とて
大良の堂に植えさせやをかるこそのまへ
びてしくたるさなる山ちくみしかさ
その花のつんいごがくきのあわさとて
うるあいうるありてなりんかそれをさやうう
ものとそれかやそのの井て河のこそこれつこそ
ひまもなくかるかの花のさうるこのかく
をでかつこわくしあんやうとて俗面よいこと

まてくをんゆーされいいつまとーろうまつ
ゆーさかてくゆりたくしーゆ下前のいつのうひるくゆ
まーいうくをんうれ茶とてゆもとさゆくらゆ
田ゆくろういたさいわくろうぐくいぞうくとーて
をおもまなくわりそう行一祖ゆいーいあわさと
なくをんゆくゆくそまとうくうくゆ井ての
ゆのつとーこことこそやうわうまうて行まこの人
思て行ろいたぐかろいたうおおづーいてぞとろて
行りうそまとーとうひ行ーどさわどかろとーと
ろういかうふさに行ーびーこの井て何ユ
ーくゆくろうろうそゆわりきうゆのぐ

まのくをんゆーされいいつまとーろうまつ
ゆーさかてくゆりたくしーゆ下前のいつのうひるくゆ
まーいうくをんうれ茶とてゆもとさゆくらゆ
田ゆくろういたさいわくろうぐくいぞうくとーて
をおもまなくわりそう行一祖ゆいーいあわさと
なくをんゆくゆくそまとうくうくゆ井ての
ゆのつとーこことこそやうわうまうて行まこの人
思て行ろいたぐかろいたうおおづーいてぞとろて
行りうそまとーとうひ行ーどさわどかろとーと
ろういかうふさに行ーびーこの井て何ユ
ーくゆくろうろうそゆわりきうゆのぐ
まのくをんゆーされいいつまとーろうまつ
ゆーさかてくゆりたくしーゆ下前のいつのうひるくゆ
まーいうくをんうれ茶とてゆもとさゆくらゆ
田ゆくろういたさいわくろうぐくいぞうくとーて
をおもまなくわりそう行一祖ゆいーいあわさと
なくをんゆくゆくそまとうくうくゆ井ての
ゆのつとーこことこそやうわうまうて行まこの人
思て行ろいたぐかろいたうおおづーいてぞとろて
行りうそまとーとうひ行ーどさわどかろとーと
ろういかうふさに行ーびーこの井て何ユ
ーくゆくろうろうそゆわりきうゆのぐ

すべて海の人びとのつくり申のことなり
てがーこれゆえのぞくあるべくぞさうん
しきりに人もとくおろうべーこんのときーぞくるひと
いちーにんよりとくがろうゆくゆくより

開の清水

あるこんのいそくあるふうききのきろこいてこそ
しるし井とあるべーれぞやるべくこんちり伊ありー
きろういあるべきろ川ハ郡の東のなのふきき
ろもみろれいぞこうと土ろうこんにたるーこ井寺
あ岡寛房の何岡梨といふ毛儒ぞひろうち
ろと土ろうかく稽どきぞゆゆーやきろと申ろ也
あるあろこんもあるーー我きのんのしぼきろこんとなくて
なるあるべきまーどこんよりあるひくかくろうしー伊き
てきてーかのあるきろ土ろこんのふきとろうて建暦
のこーめのこーー月ろうあきりのこうこ井ちこん
ゆくあるくろいうこんーーあるゆうにふるこきこ伊きうっ
まりくきろこんよりかこうく伊ろとかつくしくあん
いうでうきろこんーーー

ちうづの法なり道ちうとこ二段ぐらいやりくん
いまのこしいへのちうへすりなりく面付い水とのくと
かんぐこしつるみけまて皆のみぐらうるりけううひ
ていうちゃんへあがく行ーぬの図絵かうちくいくく
このーゆにむうひくぐこうりかぐすひくぐあき
うう家ちうくまで行きうるれへのとこことは
ちうう稲というるもたぐこへの井戸ちうらわうさうち
ありうくぐかうり行ー

貫之家

或人云貫之がかしこうすきうちのあとかぶそのう
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

すきたんと

業平家

又ありひらの中将のこへ家のぐちうんうちう
なうこたうちうちうり行ーあうるうあるそよちうく
まで行うきうしるみぐうるひうちる。れ
うしらといへ物ちうく行りうろ。ぐつぐうろうへき
ちうちうさうのうちにまこのうしのやうきうちうか
ーてうん行ーおきーこうまうにかうもたうく
つひありうくぐ海ととうり古代の面ちうみくいくぐ西ーぬ
情かうちうしうちうちうてやひうるやきどーーてのの
ぬちうーさわうれとせうりへかひうくひくく

弱の矢ぐちのきる義

関陽関侍中

みさとうのかりの我さんの弟とうあっ
いんぽうをいかりうハのぽとけしとのすくあり

あさもかたの明神

丹後は国うさぎかうりとあるとの明神やと
ここいるまん国の寺の神社とやいまもまる
みくぐったなどえうまひくかすうてうたど
のの神ましてあるとすなるられいしの海浦を
あるるの神にまれるとうんうひてうぶいや
けうあるまう物さぐくとをあをしい

まし神と法とうるうまうてさ權ちなど
まやありきん

関明神

金沢の関の明神とひのをうまうを
のまう屋のあるとうありびてきた神
なりくすう法ぐしぽもうとうを寺
うまにみまぽもしうふくさのみどの明神
まて和琴をうひの長寿宗貞ぎかねしく。
かうひうんなどのまうまてあるうをうひく
いうぐくうそ法を

和琴は打うう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中将垣内

河内国高安郡[illegible]在中ねのうちひろあり。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人丸墓

人丸のうち八大和国にわたりまうる道なかなる

人丸墓とてひくくこんもりとあるなり

[illegible]

貫之卿恒勝寺

後恵法師[illegible]

別当[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

て白河のゆんよりさかうの御ぜんに
ぐっそうしんうしるなすがたに
まわりたれば
こうるなりく後鳥羽院よりゐりもの御ぜんこの
かうりいぞくそうじめわるきひとしめうらう流
の作のあるじきまでかうたれば後鳥羽院
えびくうらうふづきてぞうひとぶわかづせ給ひ
とつぶ御思のかたにあがってぞれば
つとかうこしたうらう給べきたりときうたれば
なんぞあるじやうこうひとかわかつせ給ひ
きぞをいそれ名をいぶやうとしごいきこと

うりとの様がまのよりあるにしてそかうこと
こんにきこれうまこうにうひとうこうこうりつ
ありひとうかうかうひるうのん
後鳥羽院のうをとてごりつぐこうふまま
あをうへ通ぬ後鳥羽院のかをうの日かぐこれぐん
ぐまつりくこうこうまつりうこのにありく
世乃中いうきうりきんつうげるれや
ありひすうまでどうれぐりうの
この方をうこうひぞうりのまぶ後鳥羽院いうくこうり
をうてかうりうるかんぐうかりをうぶ承久後鳥羽院
このまをとうきうこうてぐうやこうてぐひを後鳥羽院ごりを

かうしひくとうまぐ物うらせずして紙ばかりを取
りとるのみうらこそとれといふ事どもこれ
こそうらなりもの也時の人ありうたさとられんと
ひとりの今の敷紙へ入ることをとうしらるこ
うんとのはうらせどもしてめくるべしうへくは
きをめうらなりもくぐの人をわうれるること
同人并中に名をとむ事
法性寺殿より会わりうるこを後れ申しまい
りをうりうる西昌が所へ参りうこわるう
うしうるをしりうたれんとかくうれなくなのうら物
てうらいふうてのびやれ
のびひくとぬぐうんしてをいうれうれ物ぐとこ
事法性寺
和のうらふのみかしうとをうるう
ちづがかうをもひしうりうる
とかくうるを西昌をこうさしてちうるうか
づうつぐのでかんづうり殺うせうまひくぬし
てはんじていうをうを物語てうりとぐ
かのこ首の紙をううりうこうんぐ
せうぬくまうりてこを給
三位入道春後東国成事
方家三位の方後云ぬうのうこ山立りなり

こゝ年。りくしの守ゝあるじとして。和泉の守の
御ぐしとなりてうらとてのぼる人と車をあひのりく
基後のつゝみもうむひとりあるこゝろのあるこゝ
うのうさつかへりそのあくる八月まで和泉にさうへあり
しうの音ずもうことはりけるよのくるうこゝろ
角とゝ

あるのわきそうの山ゝ月はかたく
ゝ拾ゝしくなりぬめいぞくれうしうの音もとゞく
とゝはきうとをいのぞうしぎまうこゝろ
う感きゝ拾ゝぞうくのうこゝろしく

ひとうしうあるりこうりわそいまのこゝれ人のわりさ
まうがゝとゝえしゝと拾へをこのゝこゝうれとゝろの
ゝりうこゝへのゝつゝまうりうゝうられしゝば
の宗大納言隆家卿中将大下和泉守ゝとこゝそゝん
うこゝへのゝ思ゝく物められとゝしゝうぶおかいゝとゝ
こゝびゝとゝくこゝうてわゝつゝゝとゝあんゝあゝく作ゝく
まゝあゝくしゝゝゝうゝ御前の翼ゝとゝばゝしゝうゝし
うゝゝみゝゝいゝうゝゝ後れゝゝゝとゝうゝゝべゝる
わゝゝゝ後れいゝゝやんゝとゝあゝゝとゝのゝりゝゝぞ

後れ基後いゝゝゝゝゝゝ

或へこゝ基後い後れとゝ殺蛇のへこゝさゝのへゝゝゝと

こまのみちゆくさてこそあくまといふれけまば
後拾遺ふるさとにて文時朝臣のこころうの歌
うつるはなゆゑにさかくらのうちうの歌
のこまうひらろ

腰の句後のてうみ字を雑歌

みえ雲居寺の僧ごつものりとこそ社のうれ芝
ふと後拾遺ト

ありぬるるの社のとうづれく
賢べのうち
ふとかうしさうりのあ
基後拾遺むへて雅ごいそくうの歌

こしの句れ基へて字をへ作りうのうの
くしまのしまのしくいそくしくさくしく
さ地ありしぐらりあうとべうるるく雅をしれれ
も後拾遺ぞるくもいそれざりりその歌に基
のさこ雅奥ゐおうりうるんでやうなう後拾
こそぞうりあるれられいひでうれいでく
うをとトいんごうもうとうこさ可ようか
あうごこいかす

はうこうう赤のしこ風いうひうこで
とうてうてうみ字とぞくこなるめうよいみ
まうこたりてぞのものいうびつふこうう

そうに後撰しのびよわるられる

雑賀基俊

いらなりなりうかの雑賀くと基俊こたうの
わしからきれぬだぐうんと思くおの時後撰
乃ものれ中ぬんもいとこうびみこど沢こうわさう。
井首とえうりいぐしてうきはぐひくかのんぬ
りうんがていようりうんのことやうなう方
合としてからまものをこはりくつうまう
沢よ判つそ沢りんそうりぐうけまび
う後とんくく後撰のうとりいふまとうとひ
うんりんおりよふ後りやうくれぐれうりうと

うかーこにりてわりうそ古集つ結にあひ
しまつまこばのーつぐなの四人がうくうひうもとう
おしひおくれようなもとぐれ沢つう奇り沢
うおう後はうこまんうて雅慢しきれぐかんは
人つうぐうわうひうう基後ふりうこうてやを
ううびおりれうまでぐうひおりうう

基後俳雅

後恵云法性う後うて方合おりうこうり。後歌
基後ふうう判ぐうくぬひとかくして南歌
判じうう後歌方りう

ううおりやうり井がこれまをしうう

ありふへんてしろうめを
これと墓後鶴とんてぐつはさうにーそ仏光
ろう井あをしまーやらあること雖てぜまりはは
てぐりさわと信れうの衣はいこと繁ふこうを
そのうき殿下ごうひの判のことぐそのくうさて
まいーせーこと殺仰ろうこさるん後れ物ー色
い鶴ーはいあらべ龍たうかのまにぐーこうやぐうう
をこうむーと思へうはぐーうのふうまろうりはを
かまてあるあーあれくんてこうーしまーの
仏くとうあるかりこうさうりるを墓後弱物の
人をれどかりはこうるまくんのことを那ろうを
の仏ろれぐーこれふまてく失かわくうわうある

艶書は古奇かくまま

あるんのりこうふこうとえてりそのふこうり奇
二首ありこれ下しーて絡こ也ーとあつーへ侍を
みまぐこの奇ニこをかぐこうこ古ーこの色の奇へぐつを
をぐこうるあーしぐいぐ也ものーこ思めぐーくーて
うのいこるかりきぐはこうるふるこ并ニここをん
をーつくうこをくく仏ーぐのことをあるふるこうへな
かこう仏ーうぐいうーこまーへぐーしのいろこの
このぐぐこるこのここーこーしろわざへぐこぬこをくーて
こひころう注まーこうるつぐーかるこーこなるこ也

んでいたりあり

女のあるこうけいのうる赤実

猶命淡云ちうべき事おどろしてえんすう女房な

どの者ちのこうをこうる無量一あかうりたれま

赤実のあるゆゑづえんきうぬりしたるあかえん

きうしてあびくこうふさんれいがうちまいとらきうひく

きうこうのいうずこんをあつうふかどにうべし思ひ

うんびひつうこうべうるなかう極はやどそあかうさ

やうあうぷうつのまやこえみもの実はうへんあるわれ

きうべうさうれうあうおどめうへうべくあつうてさうも

うんの者ちの二あ白おどれひうあまたのうほ

いくこうこいうひつうべうちうあまりなうば

たうこうもはうとさうもあがうれうべうあどうこいひ

てあうべうこうれんいうづうこうこうあうあるまりせ。

うくありあどうこいうあいうとうはうしうこうこう

んうのうぷうものづうこう通用しはうべういづうさなうきよ

しいひたうんうぞうんうをありうるやうなうへうれ

どそれをさうはうたうこうれうんむあせうこあること

ちうあいうこうあり

猿丸大夫墓

武人こうおうんのしとうこうこうあまりぞうこよ

猿丸大夫ぐうこうわうぷうこうひうそこの券に

義の世こそ道なれ
黒木神に祝事
志賀の郡に大道寺
黒木の神とは
道が神とあらわれ
表撰の歌

みちひろどれなくよ
山のさとにんもとをろわとなりぬ
人いまの世ど
ちりてどうとなりぬ
ちりのくらはなきまー也

志のくに井の事

武人言関卿有賢御上洛の時の歌
八人
わひうもうひくだれ国うくのうへのそひな
ゆうまてうまわうの河わうあれそう
だうのおわきうやうくしきうみくれ
ちくくそのくをわ人へとひをれや
ちうう人もみうりるもがうわひぐうまの
わうしんもうさおうるはうまんてうこれ
つうもやうわうむうてうのれぐれとうよ
井のうもうぐうしいつまーやや
ちくくこのてんうの五のこ井
とうつ井やわうとうふみかわせくむと作

どもいまは絵にうつしてぞ
あらねばかなしかりけるを
聞くにつけてもいとあはれ
なりけるものかな
中納言
づまをうしなひてのち
しこまりくさりよろ
ぼと家ぬしの月ごとに新法をゆきあ
ものびくに筆をなげうつ時を
古寺月しのぶ
ありしをもとうとうとのてしのこれ
なりけるとのうれ月ゆ

八条三位入道とてやさしうもあり
けるが入道ぜんじ時ようぜんを
ありしかばつくりかのくちんせられようとて
ちくさうり感をしれ給ふ
相ぬれば法をもちうあわれなる
京にしかるまじきことにて
いの中ねぎ家の京まうまれく給へ
京極殿
後恵物語の源ようひつ
きちうち祈いうまてそもむ
ようろうみとるでそやあろうん

こうかの中ようじまの海ぞとにとどれさうあが
えんまくにのこまくといふ帝ぎがれぞてり
いるくぢどもみのとやもあ者と和歌てもとう
うぞくくわるといふかくるくるあく帝ぎるる
ひりいくもにたりこうのようのあるう
あるぞうれようりく月というんとそんうを
とうぞふというんとそおしびきといふ清ようの
まーこうわどもしめの中みなそいぞうせう具
のーぞーの句ようく作ぎきくごとものやとあ
ふとうきてうぞうりく帝の志ものいぞうぞふる
まくうけうもむもなるぞあるうきんこうまとは

えび車歌句とぞいひけりとんむぞうせう男な
載りのあわどちやうこうの中ようがうりとある
ものあり今の乃帝一ぞうのくかどもなるうりう
ぞうまとといひきいりんくふひーき海とぞ
ひこうみありうもぞますべくもわく和どけうん
むのくいうあーびもなりくどぞこうどうぞう
ものくすぞこう花蘭きふまりあまどのづう
又鶯作とうりぞう作というとうひりいふと
いのべーぞうくこの帝とわんでせん和へうんむ
乃句もちんい作ぎこのこうぞまるこはたぞうそう
りといふ宝みてなりかくいぞずいぞうんひや今

うちまうしたてまつりそめしとうん侍り

藤合すぐる

柳葉の中しまのそぐうこいつゝ曲わりぬる色とまうゝ
り。五柳まで柳ぐさとうれくまもひとりて柳の
ちとまうぬぐくつゝくて色をまうべきにさうの
ちぢめ一ぬとぬまとまうまうまうまうまうのぐ
しく柳みぐうまうわしとふまわらせくうらゆと
うつゝ二ぬのちぢめうりうくまうぬぐこうをう
ぬぐしひぬぐうぬちんひの白れいるりぬ二のとおぐみ
ちとみわぐぬぐくうきまうぬぐのううかうぬ
なうべーかよりてもしぐきんんぬぬぬ

れりひうん弁のぐくあ方をいてぐみさ紙
ゝい真わうまうべきれぬぐうをとぬぬぬ白
わうまひといむこのちの乃さとぬぐうすぐる
うゝいひちんう

うゝの白れうれう秀弁

後恵三の八秀白と思えうれどりとすぬいひ
うのうまのうゝ後法大る右衛の四弁
なぐれうんのうすゝのれうりうぐしまい
入りをあうぬれうつしうなゝ

れぬぬ弁

すゝうゝの松のくまうりうぐしまを

月かくしぬるしらゝ山

こゝの百首うたに上の句をとりてよめるこゝろ

入りをわるゝ月といひ月かくしぬるしらゝ

きこゝろをわどもしらの白とぶえいひるべし

遠恨のまゝなり

斉詞糟糠

二条中将 雅経 後京極 斉

とはゞやもうまの山のあるゝ道資といふものゝ斉よ

月いしやうきさの中のちるゝ

なりてもみいくうちとゝ

れいろくくあるうちうくの中の中を

つゝみてうりぶうしうわうさるうぶくこゝめ

のうちうかさゝとぶゝ月

みれ故ゝ斉

すゝこのゝ月のうちうようこゝれく

わううわきされをのさむいさ

これをむうまゝらいうりのうゝ月ゝ

うゝこれくゝあらぶゝ海をうゝきくゝ

ゆゝこゝゝこのゝ紫をゝ斉の中のこゝるゝ

ゝうんぶくれりひいまゝうん人ゝ

斉をいくはうゝ月ゝ

賛歌ばかりがいくゝ斉ゝ芳

ぬやうなる二のをとこありぞれとあまりさいくを
てらうくすれぱそてるぱんくのもりかう
あるさへうせくぱにてるなれうのにたるちうと
ーしさりかいきて

書經に云

やしとんくかへしとやしぬとを海ごこ
あるひうすんへるあらじとそ思ふ

この哥えんなるうさてそおろわどこすーいひく
さぱていの哥しかてさまへーとうーくのちがえ
集の中ゐ侍ることんれど
もつりあかしとやしぬとを海ごこ

さのこいはづくうとをすつな
をいるぱされありうやうをはうせ
あわくぱへくんとべきまーうて
張衡自ふかりすうまー
四玄わざりとい記
ケどれはあにるのうにたるひまば
ケすみりうふかきうふ
この哥いうあるどぬーふかりをうくう寄ぬ
きのゆへぱるみようあきのうふとうる
わりあるまーと思ふりんうてはうくケ
どれり那波のうーとをすひまごとうのとまる

白ことばとうん風ことうり会ひ人どこうのたいこ
祠つぐうら也かう稚あすじ　ごうこうりとこと夕ごとき
なううもぞうしうこうあううおりふこうあうて
時ぐうこうるうる結ゑんんものとこうだこうていうよ
くいうしてて下の白ことばあり入ると言うた
とあうく結り
業ごうして成先中
愚源中うり

ちう稚ようの時まなくうれう松の色と
ふりうくうりりのうの雪
うまとと後恵ゑんじてしうぐあうくみうと

いつぐうも也あまううわうあくわうをう祖ふう今
てみくうまうふうとあうくおうう其の言合う
年すうと後恵ゑうう

夕ゑるうよゆうろうとわううあまとづの
すみのうちよこうこそ入あう
きのうびの言よ清輔朝臣たぐあるじやうう
ようこううしあううくかれいうすこのそこうとう
ううしとん入海うとあうあうもうんじ結うう
のさなう百とうぐうこのひういひなうとうこと
いうくわんじをづつれいうづうくみくうとに也
とかうるたくいいくとうろんのいうくけう祝う

うんどうをぶつしてしまうぶつ
うまとうくうくうまとをよてすといつべし風情を
とのづうくいぐくうくとのなれい雅に作き清く
りくめくうまーとわいわどうやうのまーとよつまはた
その行ちゆいうのまりされいたをこの句うこの秀
句このふありくいくうくわのいでうぞう

静縁こけ奇ごじます

静縁法師がづうくうのとかうく云

きうのひとうくまるれさへなうれわる

うたひいかりはすみうくうくを

きうそ法うまくうくはきどれいくはきつ

平に云ぞうくはりぐしまうれわうといてそ
くくうくわまりこをすうそいくうそやあく
法というまを法うくうの河とこそこの奇の
ぬがくはうそいくうくわうくんどとありひ
ぎうそさうあうぐうくあがゆうまくありのを
いひくふとべうりうくまーとうやくうふがど
りすぞうくうくうくうくうていふ春う
ぶのこのうんぐ法ぶをかうれどとあーしんくぐ
ちふ法ぶくいぶうくあがく法ーまうう
きいふくもあまうのうとよゆうそこそ我ひが

ゆきとあるは人のあしくなんで給ふまゝにうゝしくゆきさてかくらゐ給ひうばそくの屏
のぶらうに行こうまるぞとそこにぶられわるとい
なにゐるぞさまうでたりのかゆやとうんぶらゝ
おうられて行ぶされいぶらく雖給ふ我国
くゐくあるらゐぞこおこうりーようぶくる
ゐなりといひくゝうり給うりさぶんのさうさて
そわうぶられ

代こ恵中の秀句

後恵かくうくゝ故たる系を更顕稽うるそ
後拾遺の系の句中ゝ

ゆゝぶれいまれしものをつまは命ぶ
恋ゝんゝを知りひゝうゆま
ゝれとなりくゝ句とあるつる金葉集ゝ
まゝ秋のふまをゝとゆくあげさゝん
ありひゝそもあゝれをゝ男を
ゝまゝとゝぶれゝゝ句をゝ我えゝつる詞花集ゝ
ゆをゝゆゝ人ぶゝりとるけさえ
ゝひゝきゝのなゝまゝうば
あゝのゝとかのゝぶひゝをんゝとゝん思給ふゝゐから
まゝゝまゝなゝゝば考ゝうゐあゝどゝゝ給れ
ゐれゝりゝあゝと後恵ぶ句蕊抜のゐゝい

ひとまとめてうたれけるそれさもしかるべ
やどりてこもりゐたりけるか
ゐまことをうんぬりてこのとあり小弟つぐ行ん
とうのまこれしらしかはうくく新古今とをれば
新ゐんにすでにうたれる事こゝにいづれもわきまる
しかるべきいのちやうぐらいのうちうち
かくてこいのちやうぐらいのうちうち
移ぬ秋の月のうげとのこんく
野べの露ハ久もまくてこそられつる
そでうりすぐはれぐさのうちぐも
うるうのものとへ行ぬしん

まこと秋のうたれあり哉月

後恵ら題捕ハ云ハ

わかとんくうのうひいもけまでも

うるかきゆりそ乱なるまくる

この御ゝ後恵和下歌でうたれしてくつくく

ぐきしてうかあぐう紀ゝ行ゝ高也ゝのつもの人

ゆくぐうくのうひいるけまでもくゆ義義ごう

まこかりくうまうもくく　しかるうくんくうもくんで

うくりうれうれうる

平人ゝ雲絶海事

後恵ゝ和ゝ方ゝ師米の契りとびはしくそぐ

とどこにいたるまでよきなくうの教室の仏のる
我とまかせて仏とたのまれぬ身をたゞ自
らるかそこらうあしびとを色の世の苦組をしぼす
べうづさうへよかゆうみあ奥とおさうれバかり給たる
わかしらく我人よゆうさうる程にるりさき
他所して我ハさうそくしさうあてを絡ゆゆえん
くわうもづきまへ後世をうの行ぐうさ
なさうまくうていまもてしどその教室みくて
今ハかさうつ後よあういうもつそのうを前大絡を
あどきさうしに道と絡しへをらくみうさ
きそあうしの明のまくかうぶハかうとのしづ

人とうあう　まし我いうさうとて。あ後
のまくさのハすうとうるもいれどぶづさな
うう用うちませうれがぶくうりてう教奇も
いぞうん雲遠ありまどぶ又人もらひどうハ遠教
てそへんしてうくうう後相にいとて度もづ
後相にいとて度もづにんうびひさハいあで用
絡をこうりすぐうもとのかなう奇こそんさと
しハ絡まかくうあ由まぶ行とのあり一あわど。
後恵ハこのごうぶで初ハうこうれどくうあと
わんで絡あうう又我ハ
絡どへのうあうそうとするとうらひ絡あり

[illegible]

恵のみちをもとひとへに[illegible]

[illegible]

[illegible]

この寺ハ仁和寺の淡路阿闍梨といひしを
人のいりことのりとあり[illegible]海女屋のいとく世と
もゐてこそこうろの寺こそ[illegible]
稚ゐ[illegible]ものもあ[illegible]たぐ[illegible]ものどの

[illegible]いとしたしかりしを

花園家舎僧事

後恵ごとの和尚のこゝのわりさまのぼくし
いとりあ[illegible]ハ花園の家のこゝ[illegible]ハ法ぎこの[illegible]
さらんとこそ[illegible]
[illegible]

[illegible]ぞくこうとそ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うらうらしかりけるまま

近年會稽薩事

はじめ人々の云ふ所にはかくれぬ名所の
ちらしひらりらとかすめる人の饗宴のうらうら
さ海ぞのくがきにあさ海ぞりぐしさま
ぐりのしいうらうまたちうきを〻部をいづし
あひとりの来ぬるたもぐをしきうう畜産う
ひぐをこのと乗りてすくうるをとかしてのう
とさまし殺藻の河とうしぐうくまねぐうう
とし先達すもうすを面くあ法法さうう言名
まいうおうてうをうきをあれ畜をこうい

かあうらうんいるしぞまれくうきんのぞうあ
しきとうぐこむうぐんのうしこうばうらうしく
編版をうしたうしうれいぞうんどうしつをそもの
らぐうれくぐうしきうをううりはうまうこと
ううのうしたうまうしはうすうをうまう
おしうそぐひとうぐとうくうしぞとううあげ
ううう海ぞどぞうしうんうぐうるしぞすぐくうぐう
しきをしつきくくをうくぞうしうしつのうう
ひぐうぐぐうぐうしうんのうのうくまうぐすぐうして
うくんまうひうし通とうおむゆんをううしたれ
ぐはうくう

後成入道物語

入道こゝ後入道こゝ。後恵ハ盛世のこゝ年なりこゝ
後新りハ寺代こゝ。後新いもしよりく
思いこゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。